

野菜の需給・価格動向レポート(平成28年12月19日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	11月の価格情報				12月		12月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の12月下旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格	12月上旬				
		中旬	下旬							
キャベツ	72.93	160 (219%)	109 (149%)	72.93	99 (136%)	・7,759t (109%)	愛知(43)、千葉(36)	平均価格 →	愛知産は、9月の曇雨天の影響を受けたものの、その後は天候に恵まれ生育は回復に向かい、小玉傾向も回復していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、11月の気温の低下や雨不足の影響で生育が停滞気味であることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 愛知産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	76.91	163 (212%)	110 (143%)	76.91	98 (127%)	・3,071t (128%)	愛知(57)、兵庫(8)			
たまねぎ	83.77	65 (78%)	65 (78%)	83.77	65 (78%)	・7,960t (111%)	北海道(97)	→	北海道産は、貯蔵物からの出荷となっており、8月末の台風の被害はあったものの作柄は良く、一部産地では大玉傾向となっている。また、被害のあった輸送網についてもトラック等の振り替え輸送に対応していることもあり、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	83.77	70 (84%)	68 (81%)	83.77	69 (82%)	・3,728t (130%)	北海道(81)、兵庫(18)			
ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	240.04	342 (142%)	279 (116%)	240.04	291 (121%)	・2,431t (95%)	千葉(26)、埼玉(17)、茨城(17)、群馬(12)	→	千葉産は、8月末の台風及び9月の曇雨天の影響による生育遅れや下等級品の発生がみられることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。埼玉産は、生育は順調で太りも良く、前進傾向での出荷となっていることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。茨城産は、11月下旬の降雪の影響もほとんどなく、生育は順調で太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、9月の曇雨天の影響による生育遅れから回復し生育は順調で、太物も増加していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 埼玉産、茨城産及び群馬産の出荷が平年より多め若しくは平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	467.01	675 (145%)	517 (111%)	467.01	477 (102%)	・173t (100%)	徳島(32)、高知(16)、三重(18)、奈良(9)			
はくさい	40.32	100 (248%)	74 (184%)	40.32	69 (171%)	・6,234t (109%)	茨城(93)	→	茨城産は、生育は概ね順調で現在平年並みの出荷となっているものの、今後は9月の天候不順により定植の遅れた分からの出荷に移行していくことから、平年より少なめの出荷となる見込み。 茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	55.95	140 (250%)	103 (184%)	55.95	96 (172%)	・1,603t (88%)	茨城(28)、愛知(17)、和歌山(13)、兵庫(12)			
ほうれんそう	385.11	661 (172%)	485 (126%)	385.11	468 (122%)	・936t (116%)	群馬(33)、茨城(24)、千葉(17)、埼玉(14)	→	群馬産は、12月に入り露地物の生育の遅れも回復し、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、12月上旬は気温がやや高めに推移したこと、現在平年より多めの出荷となっているものの、今後は気温の低下に伴い、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、天候は回復してきているものの、9月の曇雨天や11月の気温の低下の影響が残り、引き続き平年よりやや少なめの見込み。 群馬産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	461.74	734 (159%)	437 (95%)	461.74	464 (100%)	・388t (128%)	徳島(28)、福岡(27)、群馬(22)、岐阜(8)			
レタス (結球)	143.63	237 (165%)	208 (145%)	233.85	223 (95%)	・3,174t (106%)	静岡(38)、茨城(14)、兵庫(12)、香川(7)	→	静岡産は、朝晩の冷え込みにより大玉傾向は落ち着きつつあるものの、生育は順調で品質も良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、11月下旬の降雪の影響により、多少品質の低下がみられるものの、大きな影響はないことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。兵庫産は、天候に恵まれ生育は順調で品質も良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 静岡産、茨城産及び兵庫産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
	154.61	253 (164%)	233 (151%)	226.75	225 (99%)	・1,084t (114%)	兵庫(51)、徳島(23)、長崎(9)			
きゅうり	289.03 370.98	433 (150%)	358 (97%)	370.98	428 (115%)	・2,290t (95%)	宮崎(34)、千葉(19)、高知(16)、埼玉(15)	→	宮崎産は、12月の好天により草勢が回復し、現在平年並みの出荷となっているものの、今後は回復してきた出荷がひと段落し、平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、11月の気温の低下による生育遅れから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は12月以降の天候の回復に伴い出荷量が増加し、平年並みの出荷の見込み。高知産は、定植時期の天候不順の影響により着果不良や生育遅れとなっており、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は出荷ピークに向けて出荷量の増加が見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。 千葉産、高知産の出荷が平年並みと見込まれるものの、宮崎産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	298.96 350.33	426 (142%)	331 (94%)	350.33	415 (118%)	・804t (91%)	宮崎(49)、高知(28)、徳島(10)			
トマト (大玉)	347.41 349.23	531 (153%)	611 (175%)	349.23	633 (181%)	・2,055t (69%)	熊本(47)、愛知(17)、千葉(11)、静岡(10)	→	熊本産は、着果不良となっていた段からの出荷が終了し、やや小玉傾向ではあるものの、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。愛知産は、9月、10月の曇雨天の影響により花とびが発生し、草勢も良くないことから、現在平年よりも少なめの出荷となっているものの、11月以降は天候が良好であったことから、今後は平年並みの出荷の見込み。 熊本産及び愛知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年に近づきつつあるものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	371.67 326.61	519 (140%)	619 (190%)	326.61	603 (185%)	・752t (74%)	熊本(76)			
なす	301.00 389.03	456 (151%)	449 (115%)	389.03	440 (113%)	・603t (97%)	高知(61)、福岡(19)、熊本(8)	→	高知産は、11月の日照不足の影響から着花不良となっていることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は12月以降の天候の回復に伴い、平年並みの出荷の見込み。福岡産は、11月の気温の低下や日照不足の影響から草勢が弱く、着果不良もみられることから、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は順調な生育となっているものからの出荷へと移行していくことから、平年並みの出荷の見込み。 高知産及び福岡産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。	
	263.21 397.74	459 (174%)	434 (109%)	397.74	427 (107%)	・246t (100%)	高知(39)、熊本(31)、福岡(15)			
ピーマン	378.83	576 (152%)	495 (131%)	378.83	453 (120%)	・829t (125%)	宮崎(34)、茨城(33)、高知(18)	→	宮崎産は、生育が遅れていた分が出荷を迎えたことから、現在平年より多めの出荷となっているものの、今後は出荷も落ち着き、平年並みの出荷の見込み。茨城産は、9月の曇雨天の影響による徒長気味の生育も回復しており、順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。高知産は、小玉傾向ではあるものの、10月以降の好天により生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 宮崎産、茨城産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	371.29	536 (144%)	466 (126%)	371.29	428 (115%)	・336t (126%)	宮崎(43)、高知(23)、鹿児島(14)			
だいこん	67.55	125 (185%)	88 (130%)	67.55	80 (118%)	・6,317t (106%)	千葉(48)、神奈川(46)	→	千葉産は、10月以降の好天により生育遅れが回復に向かっていたものの、地温の低下により肥大が進まず、生育遅れとなっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。神奈川産は、9月の曇雨天の影響から回復し、生育は順調で品質も良く太物も増えてきていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 神奈川産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	76.48	148 (194%)	97 (127%)	76.48	87 (114%)	・3,185t (113%)	和歌山(28)、長崎(28)、鹿児島(19)、徳島(15)			
にんじん	105.86	223 (211%)	166 (157%)	105.86	134 (127%)	・4,898t (94%)	千葉(85)	→	千葉産は、9月の曇雨天の影響による生育遅れから、10月の好天により回復し、細物が多い状態から回復はしてきているものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年よりもやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	104.49	241 (231%)	170 (163%)	104.49	136 (130%)	・1,727t (107%)	長崎(55)、鹿児島(16)、鳥取(14)			

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が変動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで前年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。
6 きゅうり、トマト、なすの11月の平均価格は、上段が上旬、下段は下旬の価格である。

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	11月の価格情報				12月		12月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の12月下旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 今後の価格水準 平均価格
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	中旬	下旬	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	12月上旬				
いも類	さといも	220.97	232	242	220.97	266	・588t (112%)	埼玉 (58), 千葉 (21)	→	埼玉産は、貯蔵物からの計画的な出荷となっており、作柄が良かったことから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。千葉産は、年末需要に向けて計画的な出荷となっており、現在平年よりやや多めの出荷となっているものの、今後は年末需要も落ち着くと見込まれ、平年並みの出荷の見込み。
		217.56	292	282	217.56	279	・231t (104%)	愛媛 (47), 福井 (28)		
	ばれいしょ	96.99	152	162	96.99	172	・3,204t (79%)	北海道 (84)	→	北海道産は、貯蔵物からの計画的な出荷となっており、8月末の台風による大雨の影響で歩留まりが低下しており、肥大もあまり良くないことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
96.99		158	164	96.99	164	・1,370t (85%)	北海道 (82), 長崎 (18)			

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで前年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。
6 きゅうり、トマト、なすの11月の平均価格は、上段が上旬、下段は下旬の価格である。

1 主要野菜の生産出荷状況（特定野菜）

種類	11月の価格情報				12月		12月上旬の東京及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の12月下旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 今後の価格水準 平均価格
	(参考)過去5カ年平均価格	東京・大阪市場の旬別価格	中旬	下旬	(参考)過去5カ年平均価格	12月上旬				
洋菜類	ブロッコリー	268.06	543	439	297.74	481	・714t (86%)	愛知 (26), 埼玉 (26), 香川 (18), 群馬 (10)	→	愛知産は、9月の曇雨天の影響により、根張りが悪く生育遅れが発生していることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は9月の曇雨天の後に定植し、順調な生育となっているものからの出荷となることから、平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、根張りが弱く、最近の気温の低下により花蕾の肥大が遅いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 愛知産の出荷が平年並みと見込まれるものの、埼玉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		346.18	519	451	340.20	493	・181t (72%)	徳島 (25), 鳥取 (21), 香川 (15)		
根菜類	ごぼう	222.66	371	373	272.73	416	・279t (72%)	青森 (64), 茨城 (17)	→	青森産は、8月末の台風の影響により葉の損傷や茎の折れ等が発生し、細物や短物が多く、曲がりも見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 青森産の出荷が少なめと見込まれることから、現在平年を上回っているの価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		159.67	259	298	185.34	316	・307t (96%)	茨城 (43), 北海道 (21), 青森 (13)		
果菜類	かぶ	111.27	160	140	118.03	139	・455t (87%)	千葉 (83)	→	千葉産は、11月の冷え込みはあったものの、10月以降の天候の回復により、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 千葉産の出荷が引き続き平年並みと見込まれ、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		133.11	229	180	129.00	189	・83t (67%)	徳島 (30), 福岡 (28), 石川 (20), 千葉 (11)		

注：1 平均価格は、過去5カ年（平成23～27年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで前年実績である。

2 トピック — れんこんの需給動向について —

今回は、12月に卸売市場における入荷量がピークを迎える代表的な正月野菜のひとつである「れんこん」について紹介する。

れんこんは、漢字では「蓮根」と書くが、蓮（ハス）の根ではなく、地下茎が肥大した部分である。ほかに茎が肥大した野菜は、ばれいしょやクワイなどがある。蓮の原産地は中国、インド、エジプトと諸説あるが、中国説が有力で、1500年前にはすでに日本に実在していたようであり、現在、わが国で食用または観賞用として栽培されているのは、中国種及び日本固有のものである在来種に大別される。
中国種は、奈良時代に主に観賞用として仏教とともに渡来した。日本で食用作物としてれんこんが栽培されるようになったのは、明治時代に中国種が再導入された以降であり、特に現在のような集約的な栽培様式になったのは大正初期のことであった。中国種は病気に強く収穫量が多いため、現在、日本に流通しているれんこんのほとんどは中国種を品種改良したものである。ちなみに、「蓮」と「睡蓮（すいれん）」は花や葉の形はよく似ているが、睡蓮にれんこんはできない。

れんこんの生産状況は、作付面積及び出荷量も、平成19年以降ほぼ横ばいで推移しており、27年では作付面積が3950ヘクタール、出荷量は4万7400トンとなっている。
主産地は、関東では茨城県産、関西では徳島県産であるが、茨城産の出荷量は2万4900トンで、全国の52.5%を占めている。茨城県で飛躍的に出荷量が伸びたのは、昭和45年から始まった米の転作事業によるものである。

れんこんは、しゃきしゃきとした独特な歯応えが特徴で、穴から先が見通せることから、縁起物として正月料理などの伝統料理には欠かせない野菜として根強い需要がある。れんこんの穴は、中央の穴を含めて通常10個（子で8個、親で10または12個）あるが、葉の気孔から取り入れた空気を地下茎まで送るための役割を担っている。（根で吸収した水分が通る導管や、葉でできた養分が通る篩管とは異なる。）
なお、9月以降、葉や茎が枯れると空気の供給が止まり、それ以上は成長せず、休眠期に入るといふ。収穫されるまで、ひっそりと泥の中で劣化もせず、長いときは3月頃まで待っているのである。

1人当たりの年間購入量は、平成19年以降、400～500グラムで推移している。
れんこんは、抗アレルギー作用などが最近注目されているポリフェノール、ビタミンC、カリウム、ビタミンB群（B1やパントテン酸など）、食物繊維など多様な栄養素や機能性成分を含む野菜である。
また、でん粉も多く含まれていることから、関西では、れんこんから抽出したでん粉を用いたわらび餅のような和菓子があり、和三盆との組み合わせは、絶妙な舌触りと、上品な甘さがある。

旬を迎えたこの時期、正月料理以外でも、さまざまな料理で食したいものである。

図1 れんこんの作付面積、出荷量、単収の推移

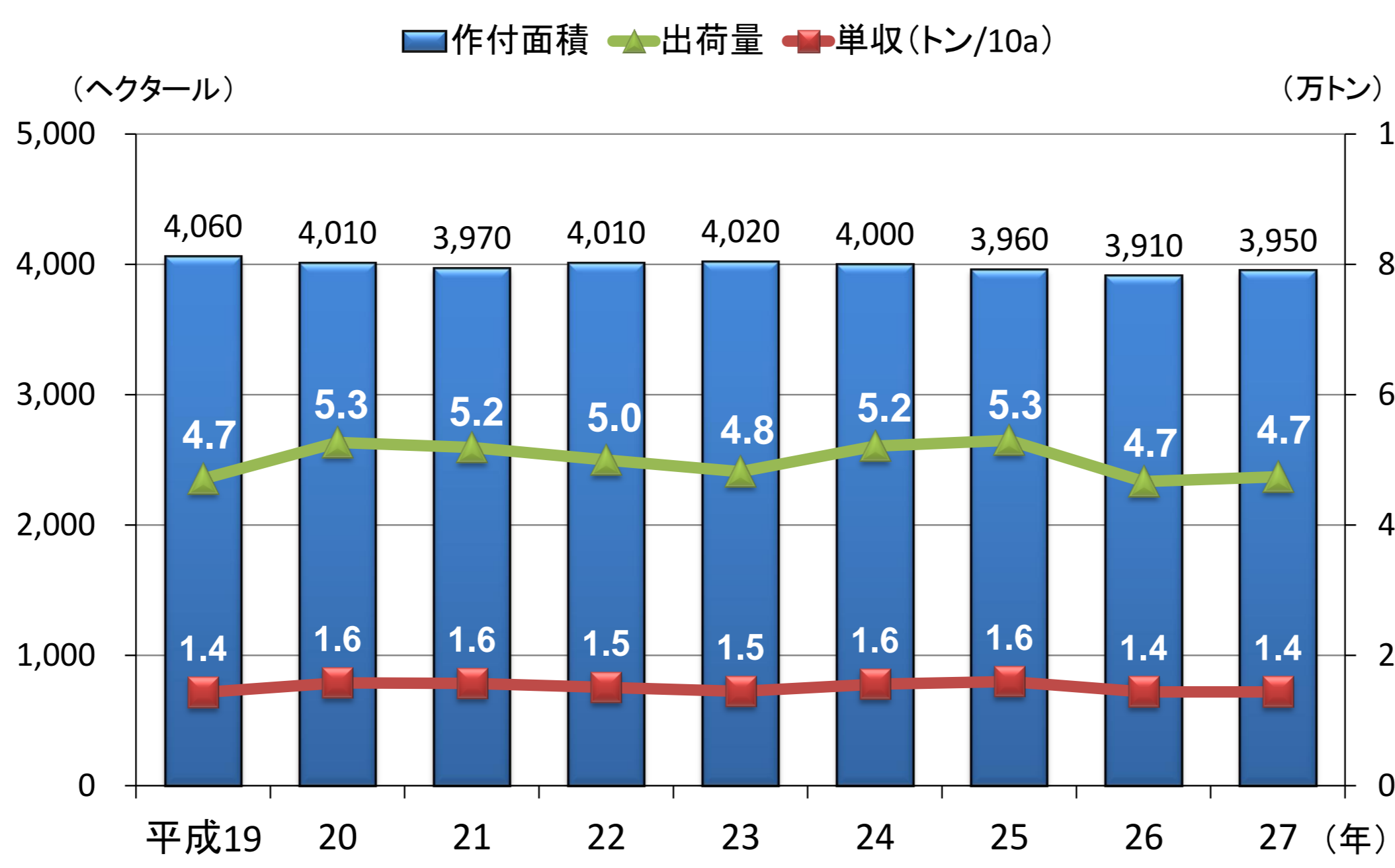


図2 れんこんの出荷量の推移(主産地県別)

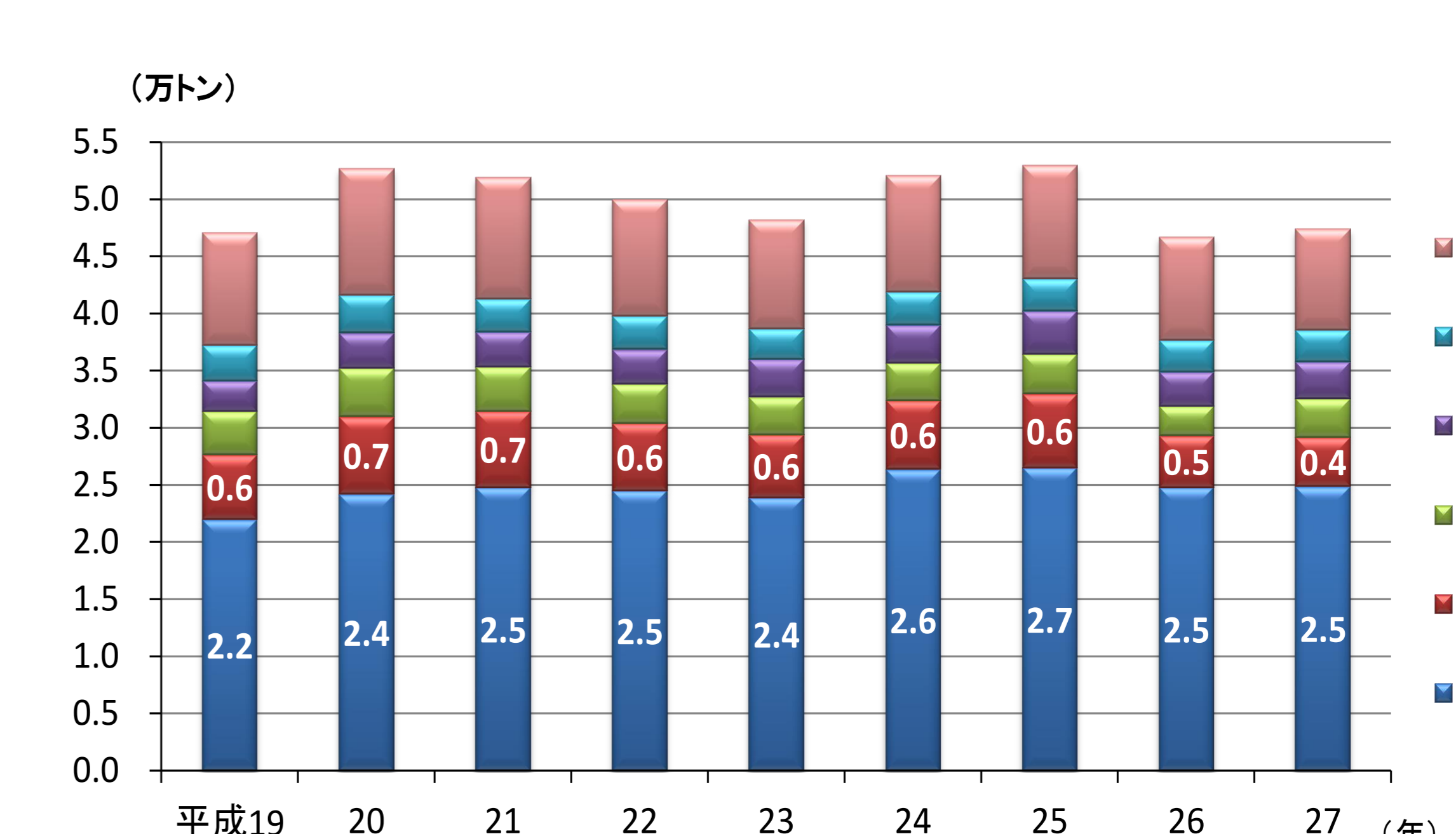


図3 れんこんの一人当たり年間購入量の推移

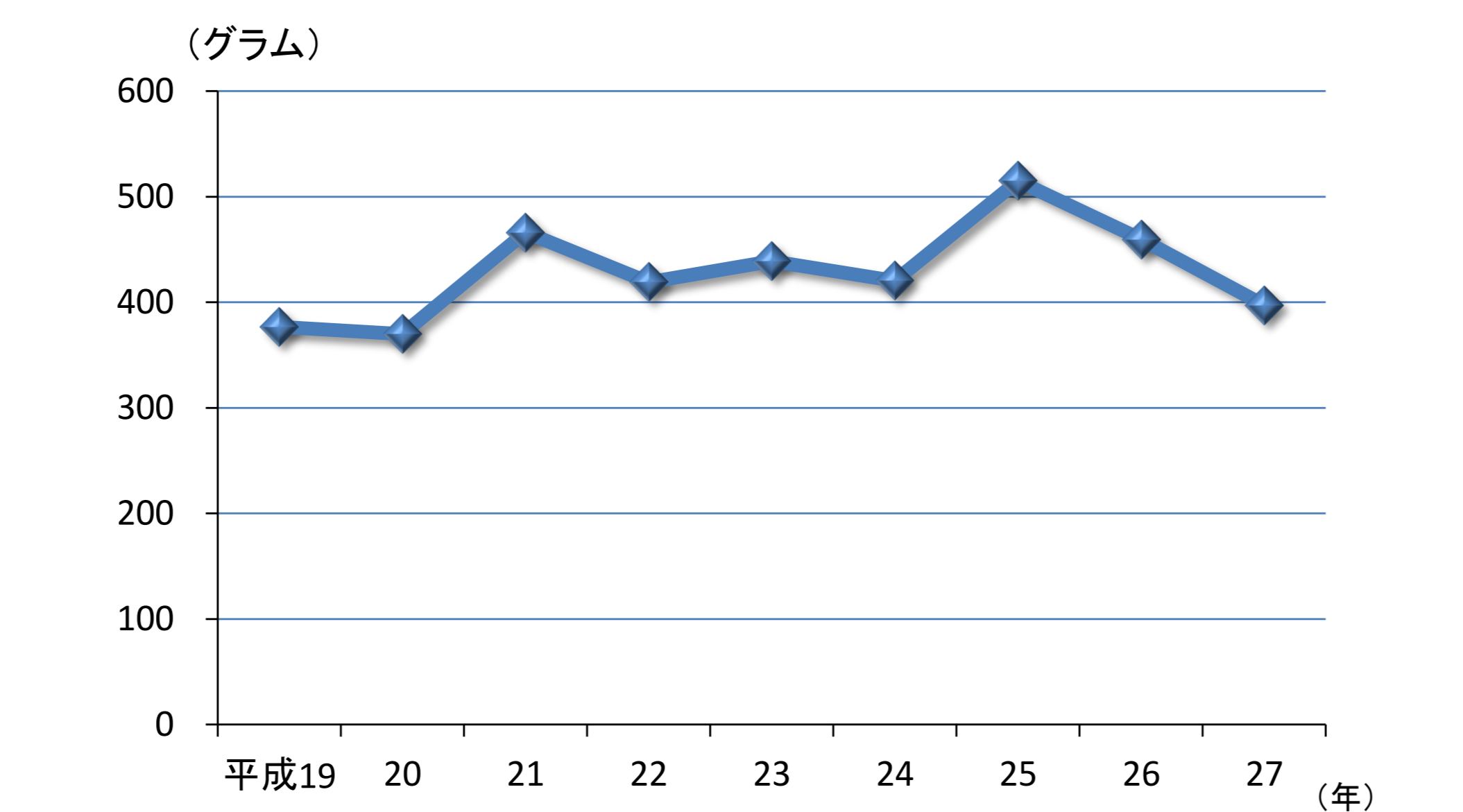
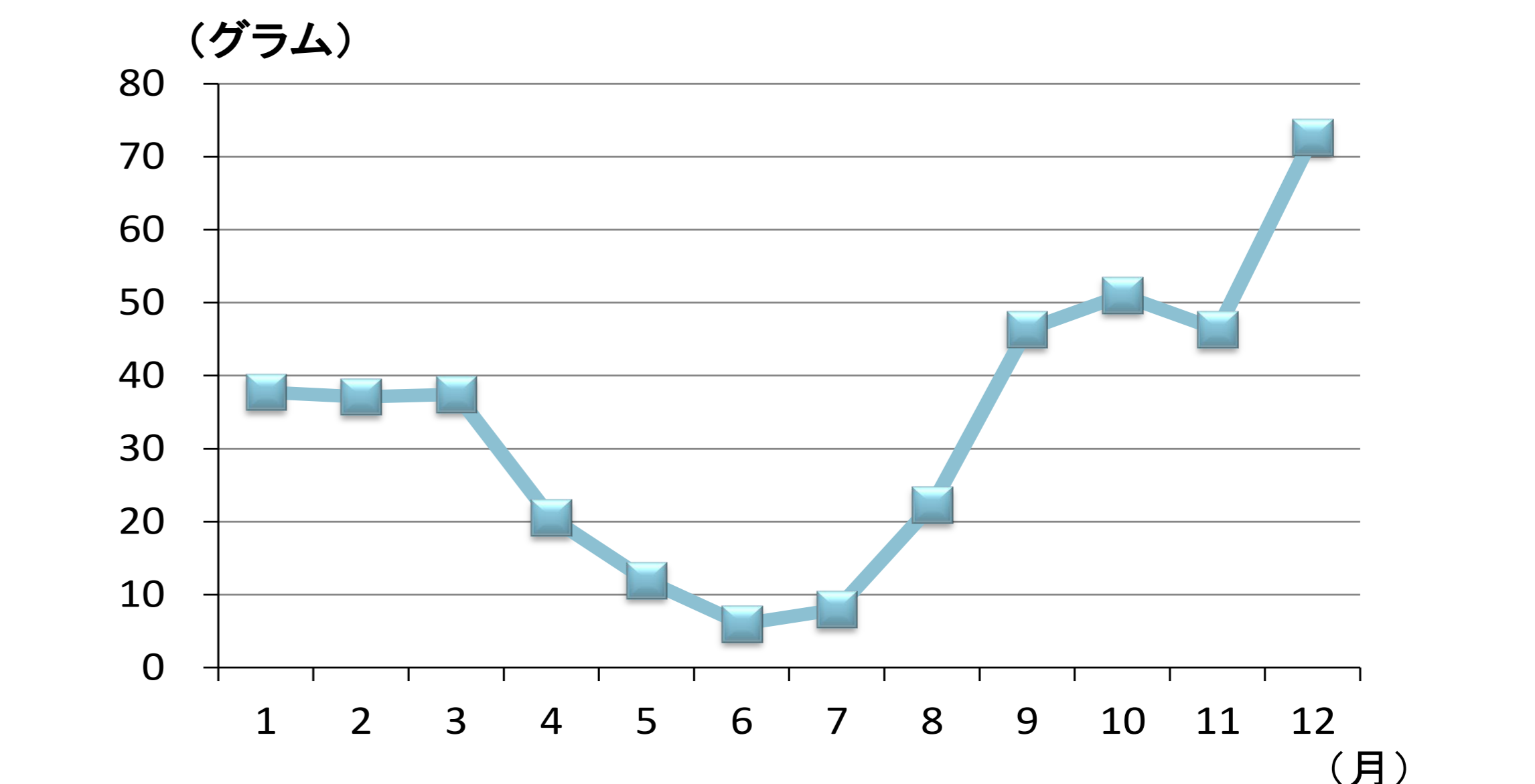


図4 れんこんの一人当たり月別購入量の推移(平成27年)



資料：図1、2 ペジ探（原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」）、図3、4 ペジ探（原資料：総務省「家計調査」）

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、松岡、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メルマガジンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://www.alic.go.jp/y-suishin/yajukyu01_000058.htmlに掲載しています。
※無断転載禁止 ・ レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。